

創立15年のご挨拶を申し上げます ☆**♪

15年の軌跡

生浜地域誌

第63号

2022.9.30

発行

NPO 法人

ちば・生浜歴

史調査会

電話

080-5387-

2592

<15年以前>

生浜地域をこれほどつぶさに、記録を残した人はいない。

宋倉健吉（1897 明治30年～昭和59年1984）氏の郷土の記録は後に『千葉市南部の歴史』という一冊の本にまとめられたのです。【昭和63年・千葉市教育委員会発行】

宋倉氏は小学校の皆勤賞でいただいた「歴史の本」から興味を持ち始めてコツコツと記録してきた、と千葉テレビのレポート番組で話されていました。その詳細な記録は専門家ではないので足で歩き、手で書き残した生々しい郷土の記録であり、それは驚くべき質と量でありました。

この業績を公民館活動に位置づけ、郷土史の勉強会（サークル活動）を開設し、公民館主催の文化祭では広く住民に公開し、市民活動へと発展させてきました。その中核を担ったのが生浜出身の同窓生数名と、地元の協力者の面々でした。

そして数年後それらは『郷土の歩み』【昭和56年・生浜郷土史研究会刊】という一冊の本にまとめられたのです。

このメンバーのひとりである白井三郎（1914 大正3年～平成6年1994）氏は「生浜の歴史を語るには小学6年生に理解できる表現にしなければならない」という信念のもとに『生浜を知ろう』【平成元年刊】、『ふるさとすごろく』【昭和54年から毎年発刊して7集】を作成しました。

<15年前> 『NPO 法人ちば・生浜歴史調査会』が立ち上がる。

宋倉敏子氏の声かけで今から15年前に今井公子氏が生浜の同窓生と一緒に諸先輩の協力も得て NPO 法人として結成されました。千葉市史の編纂にも携わってきた経験や生まれ育った生浜の地には多くの縁のある今井氏は、生浜小・中の同窓生という濃い絆でこの会を牽引して来ました。

旧生浜町役場が市の有形文化財に指定され公開されていて、NPO 制度が市民権を得る社会情勢でもありました。浜野町内会はそれまでの郷土史に関する史資料を所有し、「郷土資料館」と命名して浜野町の山王会館の脇に農具・漁具・生活用具等収納してありました。それら先人の遺産を受け継ぐ形で15年が経ちました。

この間、NPO としての活動は「郷土に密着したマップ」「地域の名勝の絵葉書」を作って配布したり、「昔あそびの出前講座」や「小学生・保育園児の展示物見学会」を実施してきました、また、数々の文化講座やワークショップも開催してきました。そして本会古文書学習で椎名の鶴田家の『名主文書』【2019 平成31 年令和元年】や『御用留』【2021 令和3年】の解説を長年取り組み、それぞれ上梓できたことは大きな成果です。地域誌を（年4回）発行し、それを生浜地域全町会の協力で回覧板としてお知らせしていただけることも大きな支援となっています。生浜地域は古くは半農半漁の村であった、その昔と今を提示・明示して15年が経ちました。

先人の、そして地元の先輩後輩、同輩、加えて「本会賛助会員」の援助を以て活動できたことに心から感謝をして、一言御礼を申し上げる次第です。

極めてローカルな郷土のことを、愛着を持って伝聞していく、そしてその意義を強く意識して行なってきた本会であります。「目には見えないモノの大切さを共有したい」「郷土のことを知ることで心が健康になる」と私どもは信じているのです。そして「目に見える史資料を通じて人々の心の中に積み重ねられていく、その『思い』が充実していく事」を願っています。

<理事長・白井孝>

地域の過去・現在・未来を結ぶ活動を通し、豊かな毎日を過ごしましょう!!!